

## 令和7年度 1学期終業式

第三中学校という大きな船が、1学期の旅を終え、夏休みという港へ到着しました。

皆さんは三中という船の中で、それぞれが自分の目標に向かって進んできました。船長の私からすると、1学期の学校生活という大海原での航海は、時には順風満帆な日もあれば、嵐に遭遇して揺れる日もありました。でも、生徒の皆さんの笑顔や先生たちの協力で今日を迎えることができ、ホッとしています。

ここで、船員を代表して、小倉さんに1学期を振り返ってもらいます。

私は、この1学期、皆さんがそれぞれの持ち場で一生懸命努力している姿をたくさん見てきました。授業に真剣に取り組む姿、部活動で汗を流す姿、係活動や委員会活動で責任を果たす姿、そして何より、友達と協力し、助け合う姿。皆さんの頑張り一つ一つが、三中という大きな船を前に進める原動力となっていました。

新しい環境に慣れ、日々成長していく1年生。部活動や学校行事で元気よく活躍した2年生。そして、体育祭を盛り上げ学校を引っ張りながらも、いよいよ進路選択を具体的に考え始めた3年生。それぞれの学年で、それぞれの課題と向き合い、よく頑張っていました。

しかし、どんな船でも、旅の途中で船や一般社会のルールを無視したり、他の船に迷惑をかけたりすれば、安全に港にはたどり着けません。

学校や社会には、皆さんが安全に、そして安心して学ぶためのルールがあります。それは、私たちの船が座礁しないように、他の船とぶつからないようにするための大切な灯台のようなものです。この灯台の光を見失わないように、夏休み中も、そして2学期にも、自分自身の行動に責任とプライドを持ち、周りの人への配慮を忘れないでください。

夏休みという港に入る前に、2つの大切な言葉を贈ります。

1つめは「情けは人の為ならず」という言葉です。

皆さんはこの言葉を聞いたことがありますか？人に親切にすることや、情けをかけることは、その人のためだけでなく、最終的には巡り巡って自分に返ってくる、という意味のことわざです。鬼滅の刃一刀鍛冶の里編で時任無一郎と兄の有一郎の会話の中でも出てきました。

この1学期、皆さんの周りには、困っている友達はいませんでした

か？ 誰かが失敗をしてしまった時に声をかけたり、学習でつまづいている人に教えてあげたり、部活動で励まし合ったり。小さなことでも、誰かのために行動した経験があるのではないのでしょうか。

実は、このような「情け」をかける行為は、相手を助けるだけでなく、皆さん自身の心も豊かにします。誰かを助けることで得られる達成感や喜びは、皆さんの自信に繋がり、人間関係をより良いものにしてくれます。そして、皆さんが困った時には、きっと誰かが手を差し伸べてくれるでしょう。

夏休みは、地域の人々と関わる機会も増えるかもしれません。そんな時こそ、この「情けは人の為ならず」の精神を忘れずに、積極的に周りの人を思いやる行動を心がけてみてください。きっと、皆さんの夏休みが、より実り多いものになるはずです。

2つ目は、「天に向かって唾を吐く」という言葉です。

これは、人に対して悪意のある行動をしたり、他人を傷つけるような言動をしたりすると、結局はそれが自分自身に跳ね返ってきて、自分を苦しめることになる、という意味のことわざです。

例えば、誰かの悪口を言ったり、SNSで不確かな情報を拡散したり、あるいは軽い気持ちで他人をからかったりすることもあるかもしれません。しかし、そのような行動は、一時的に快感を得られるように感じて、決して良い結果には繋がりません。

皆さんの発した言葉や行動は、必ず誰かに届き、影響を与えます。そして、その影響は、いずれ皆さんの元へと戻ってきます。人を傷つけば、自分も傷つく。人をおとしめれば、自分もおとしめられる。そんな負の連鎖を生み出してしまうのです。

夏休みは、学校から離れて自由な時間が増えますが、だからこそ、自分の行動や発言には一層責任を持つ必要があります。特にSNSなど、顔が見えないコミュニケーションでは、安易な発言が大きな問題に発展することもあります。常に「天に向かって唾を吐く」ことにならないかを考え、相手を尊重し、思いやりのある態度で人と接してください。

結びに、この1学期、皆さんが見せてくれた努力と成長は、素晴らしいものでした。長い夏休みに入りますが、この2つの言葉を胸に刻み、充実した時間を過ごしてください。皆さんの行動が、周りの人たちの2学期からの旅にも影響を与えることを忘れないでください。

また、「白黒」「赤」「白」の3つの車のお世話にならないようにしてください。

では、2学期始業式に、心身共にたくましく成長した皆さんと旅ができることを楽しみにしています。